

乳幼児施策についてお伺いします。

新型コロナウイルス感染症の世界的な流行の影響により、日本のみならず世界中で乳幼児への予防接種率が下がってきております。NPO 法人「VPD を知って子どもを守ろうの会」の7月の調査によると、新型コロナウイルスの感染拡大で「感染が怖い」「外出自粛した」などを理由に、子どもの予防接種を延期した保護者が33%だったことが分かりました。厚生労働省も予防接種は不要不急には当たらないとし、各自治体へ予防接種を控えることがないよう働きかけを要請しています。折しも来月からは、我が会派が長年要望してまいりましたロタウイルスワクチンの定期接種も始まってまいります。

そこで一点目に、区報はじめ「ねりま子育てサポートナビ」等で区民へ予防接種を控えることがないよう十分な情報発信を行うとともに、接種の対象期間に遅れても接種することにより病気のリスクを減らすことができることを周知する必要があると思っておりますが区のご所見をお伺い致します。

また、定期予防接種は公費負担ですが、定められた対象期間に受けなければ「任意接種」の扱いとなり全額自己負担となってしまいます。

そこで二点目に、コロナの影響による接種の見送りや、ワクチンの供給不足が原因で対象期間が経過してしまった場合にも、自己負担無く接種できるようにすべきと要望いたしますが、区のご所見をお伺い致します。

次に、厚生労働省は4月に緊急事態宣言下の自治体に集団検診を原則延期するよう要請しました。その影響により、各自治体では乳児検診の遅れが出ております。

乳児検診は、乳児の状態を見るとともに、母親の様子を確認することも大事な目的の一つとなっています。特に、4か月検診は育児への不安や疲れが出るタイミングであり、外出もままならず、孤独感を募らせた母親が産後うつになる恐れがあります。厚生労働省の審議会がまとめた2017年度の虐待死事例では、20人中5人が4か月検診未受診者との結果も出ております。

そのため練馬区では、コロナの影響による乳児健診の遅れを委託により補っていると仄聞しております。しかしながら、委託先では乳児検診は出来ても母親の様子までは確認できないという問題も起こっております。

そこで三点目に、委託を行っても母親の様子を確認できる体制を考えるべきと思いますが、区のご所見をお聞かせください。

次に関連して、出産時の **PCR** 検査についてお伺いします。

この度、厚生労働省は症状の有無にかかわらず妊婦の **PCR** 検査費用を公費で補助する方針を固めました。しかし、出産は自由診療のため、対象外になってしまいます。

そこで四点目に、我が会派が緊急要望にて訴えた妊婦の **PCR** 検査について、9月10日から東京都で検査費用上限2万円の補助を開始したことを受け、区として自己負担が無くなるよう検査費用補助を行うべきと要望いたしますが、ご所見をお伺い致します。

健康部長答弁

新型コロナウイルスの感染防止対策として、4 か月児検診を今年度に限り医療機関で実施することとしました。

健康受診票には母親の心身の状況に関する項目を新たに設けました。

保健相談所は、医療機関から送付された受診票を確認の上、懸念のあるご家庭には保健師が連絡をしています。6 か月児健診のご案内を送付する際にもアンケートを同封しています。今後も母親の心身の状態の早期把握と育児不安の軽減に努め、コロナ禍においても安心して育児が行えるよう支援してまいります。

次に、妊婦のPCR検査についてです。都の補助制度は、妊婦のPCR検査を行える医療機関として都が指定した病院等で検査を受けた際、検査費用上限2万円を助成するものです。

始まって間もないため、区内や近隣区市で検査を受けられる医療機関が非常に少ない状況にあります。また、医療機関により検査費

用にばらつきがあるため、自己負担が生じる場合もあります。利用しやすい制度となるよう都に働きかけをしてまいります。

練馬区保健所長

次に子どもの定期予防接種についてです。

新型コロナウイルス感染症により、保護者が接種を控えることがないよう、「練馬子育てサポートナビ」等で情報発信を行っていきます。現在、ワクチンが不足している状況にはないと聞いていますが、新型コロナウイルス感染症の影響により接種を受けられなかった区民の方には、接種期間を延長する措置を設け、無料で接種できる体制を整えてまいります。